



★ **1960年 国分寺市生まれ**
 子どもの頃から生き物が大好き。
 将来の夢は獣医さんだった。

★ **学生時代から社会活動に参加**
 都立武蔵高校卒業後、お茶の水女子大学理学部生物学科へ。学業の傍ら、「日本ナチュラリスト協会」に

入り、環境教育や生物調査の活動に加わる。また、林業と野生動物の共存を目指し、「カモシカ食害防除学生隊」を組織し、山でのボランティア活動をおこなう。

★ **小学校教員**

お茶の水女子大学院へ進み教育学を学ぶ。修士課程修了後、小学校の教員となる。子どもたちと畑を耕したり、子豚を学校に連れてきたり、ユニークな教育実践をおこなう。

★ **個人ボランティアとしてタイの農村へ**

タイの村の子どもたちとの出会いをきっかけに、2年間タイに移り住む。帰国後に結婚。日本とタイを行き来しながら、教育をテーマに、日タイ交流活動に取り組む。

★ **子育てグループ「野戯の森」**

1995年、あきる野市へ転入。1997年、長男の出産を機に日本での生活に比重を移す。近隣の母親たちと子育てグループ「野戯の森」を作り、大澄山や平井川で自然遊びをおこなう。

★ **「川原で遊ぼう会」「平井川こどもの水辺」**

2000年、友人たちと「川原で遊ぼう会」を立ち上げ、平井川で自然観察会と環境保全のための活動を始める。2004年からは、行政との協働活動として「平井川こどもの水辺」を進める。

★ **「あきる野市環境委員会」**

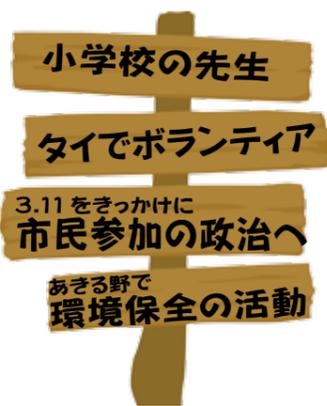
あきる野市環境基本計画の作成に市民委員として関わり、現在は、あきる野市環境委員を務め、森のようちえん部会の一員として「小さな子どもたちのおさんぽ会」をおこなっている。

★ **脱原発の市民活動**

2011年、福島原発事故に衝撃を受け、4月に「さよなら原発～にしたま～」、6月に「チャイのネット（放射能汚染から子どもを守るあきる野ネットワーク）」を仲間たちと立ち上げ、活動を始める。2012年からは、NPO法人「放射能市民監視センター・ちくりん舎」の理事となり、放射能測定オペレーターも務める。

★ **市議選にチャレンジ**

2013年6月のあきる野市議会議員選挙に立候補し惜しくも次点に。その後も「ちいさな声が届く市政」を目指して活動を続ける。草花在住。夫と高3、中2の息子の4人家族。ネコ、インコ、カメなどと一緒に暮らす。
 (討議資料)



十月四日には、市長選挙と市議会議員の補欠選挙がおこなわれます。私たちの一票が政治を変える力になります。みんなで選挙に行きましょう。

辻よし子の政治モットー

小さな声に耳をすまし、
 大きな力にひるまず！

辻よし子の目指すこと

- ♥ 小さな声大切にされる社会の仕組みを！
- ◆ あきる野から平和・不戦のメッセージを！（安保法案に反対します）
- ♥ 性差別のない社会をめざし、女性議員を増やそう！
- ◆ 開発を見直し、あきる野の豊かな自然を次世代へ！
- ♥ 子どもたちがのびのびと育つ環境を！

「辻よし子と歩む会」
 ☎ 190-0154
 あきる野市高尾 182-1 佐橋方
 電話 & FAX : 042-596-4569
 e-mail : kusasigi@nifty.com
 共同代表 : 柏倉倫子・岩田純子

会員募集中！
 年会費 : 1,000円 (カンパ歓迎！)
 郵便振替
 加入者名 辻よし子と歩む会
 口座番号 00140-9-430053
 ゆうちょ銀行 (店番)
 〇一九 (ゼロイチキユウ) 店 (019)
 当座 0430053




HP「辻よし子と歩む会」で検索

ひとりひとりの意志が時代を変える。
 まずは足元の政治から！

議会に風穴を！

議会は「政治家」だけのものではありません。
 議会を市民の手に！

政党に縛られない
 自由な発想を議会に！

「辻よし子と歩む会」は、どこの政党にも属していません。所属政党の方針に縛られることなく、また、政党同士の政治的駆け引きにも関係なく、市民の声をストレートに議会に届けます。

全国には、無党派で活動している議員がたくさんいます（選挙の時だけ「無所属」と掲げる議員とは違います）。

市民ひとりひとりの小さな声をつなげ、政治の力へ変えていきます。市議会を「政治家」だけの特殊な場にしてしまってははいけません。おかしいと感じる「議会の常識」を変え、議会を市民の手に取り戻しましょう。

当然の
 市民感覚を持った

35年の市民活動で蓄積した
 知恵と経験を市議会に！

辻よし子は、高校時代から社会にかかわる活動をしたと考え、大学入学と同時に環境教育団体に参加し、社会人に混じって活動を始めました。その後も自らの問題意識に立って、環境、教育、人権の各分野で、市民活動を続けてきました。

35年以上に及ぶその経験と知恵を活かし、市民の立場から、あきる野の市議会に風穴をあけていきます。

「市民に分かりやすい政治」「市民が参加しやすい市議会」「小さな声大切にされる町づくり」に、全力を挙げて取り組んでいきます。



辻よし子だからこそ、できること

原発事故被災地では、今、露骨な被災者切り捨てが進められ、憤った多くの住民による裁判も始まりまし

2年前のあきる野市議会議員選挙で、辻よし子は惜しくも次点に終わりました。しかし、選挙で掲げた目標「小さな声が届く市政」に向かって、活動を続けています。

真の議会改革を

私たちが出した「ヘイトスピーチの法整備を国に求める陳情」が、今年6月の議会で、陳情内容は一切審議されないまま不採択になりました。理由は、議会を傍聴して感じた疑問や批判を載せた通信を配布したことでした。前代未聞の出来事です。市民が議会の批判してはいけないのでしょうか？

市民の声をこのような形で門前払いにすることは、民主主義社会においてあってはならないことです。現在、議会に「公開質問状」を出し、回答を求めています。

一方で、同じ6月議会で、市民に開かれた議会を目指す「議会基本条例」が採択されました。条例の精神に則った議会改革をおこなうためには、あきる野市議会に新しい風を送り込むことが不可欠です。

小さな声が大切にされる社会の仕組みを

市内に住む性同一性障害のIさんとの出会いから、私たちはたくさんのお話を学びました。「社会的弱者が大切にされる社会は、みんなにとっても暮らしやすいはず！」というIさんと私たちの共通の思いから、一緒に市へ働きかけをし、いくつかのことが実現しました。

- 市の様々な申請書から、不必要な性別記載を大幅に削除してもらいました。
- 市内の学校の校長先生や養護の先生に当事者であるIさんのお話を聞いてもらう活動を進めています。性的少数者は、学校の1クラスに1人以上の割合でいると言われています。

フクシマを忘れない

●福島原発事故の被災地では、今も放射能に汚染された地域で暮らさざるを得ない人たちがいます。特に子どもたちの健康が心配です。

辻よし子は、市内のママたちと一緒に（「チャイロのネット」）、被災地の子どもたちの健康を守る活動「子ども支援WEEK」*をおこなっています。この活動には、地域のたくさんの商店が協力してくださっています。（*お店の売り上げと募金を被ばく検査の費用として寄付）

●私たちは、被災者の心によりそった支援を国に求める陳情（「原発事故子ども・被災者支援法」の早期実現）をあきる野市議会に2回提出しました。しかし、いずれも「採択」されませんでした。全国には、私たちと同じ趣旨の意見書が採択されている議会がたくさんあります。



性差別のない社会をめざし、女性議員を増やそう

●都議会でセクハラ野次が問題になりましたが、議会の中でセクハラ被害を体験したことのある女性議員の割合はなんと半数以上に上ります（「全国フェミニスト議員連盟」によるアンケート結果）。

●日本では性別役割分担の考えが根強く、多くの議会は男性議員が8割以上を占めています。あきる野市議会も21人中、女性議員はたったの3人です。子育て・福祉・教育・環境など、暮らしに直結する政策決定の場に、女性の声がなかなか反映されません。

女性議員を増やし、性差別のない社会をめざしましょう！

開発を見直し、あきる野の豊かな自然を子どもたちに

●あきる野市は、2015年4月に「生物多様性あきる野戦略」を策定しました。これから、この戦略をどうやって具体化していくかが重要です。そして、子どもたちがのびのびと育つための保育環境を整えるとともに、豊かな自然の中で遊び、学べる環境を守りたいと思います。

●辻よし子は、「川原で遊ぼう会」「平井川こどもの水辺」「あきる野市環境委員会」などの活動を通じて、あきる野市の自然環境の保全に取り組んでいます。

●2012年度から進められている深沢川の砂防工事については、世界に数千羽しか残っていない貴重な野鳥・ミソゴイの繁殖地が破壊され、新聞やテレビでも取り上げられました。私たちは、引き続き予定されている上流の工事は、環境に配慮して慎重に工事をしてほしいと、議会に陳情を出しましたが、不採択になりました。

しかし、そのことがきっかけで、都や市が私たち市民の声に耳を傾けてくれるようになりました。来年度以降予定されている工事についても、環境に配慮した工事を求めて行政に働きかけをしています。

あきる野から平和・不戦のメッセージを

◆秘密保護法、集団的自衛権の行使容認、安保法案……。安倍政権の暴走が加速しています。70年間、不戦を守り抜いてきた日本が、今、大きな曲がり角に立っています。

自分の子ども、よその子ども絶対に戦争には行かせません。「平和」という名の「戦争」に、だまされることなく、あきる野から「不戦」の声を上げ続けていきます。

（あきる野市議会では、集団的自衛権をめぐる解釈改憲



に反対する意見書が、自民党の反対で不採択になりました。）

「地方議会は民主主義の学校」と言われます。五日市憲法の発祥の地であるあきる野市にふさわしい、市議会を！